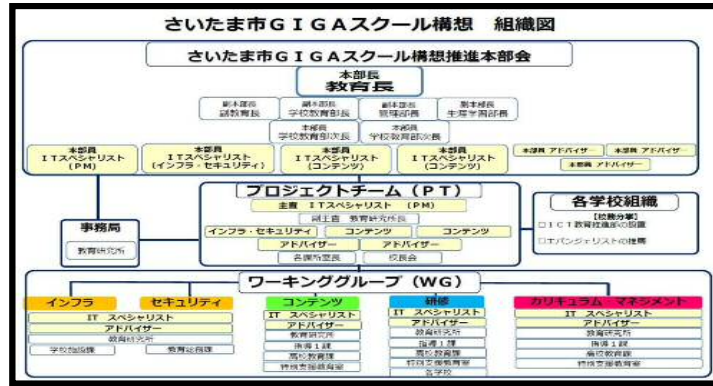


「さいたま市GIGAスクール構想」実現に向けて

来春には「さいたま市GIGAスクール構想」の本格実施を迎えます。現在の進捗状況ですが、市立小中学校及び特別支援学校の高速大容量ネットワーク工事が順次進められており、タブレット端末も今後、徐々に学校に導入していきます。また、「さいたま市GIGAスクール構想」の実現に向けて「さいたま市GIGAスクール構想推進本部会」を中心に、ITスペシャリスト並びにアドバイザーにアイデアやアドバイスをいただきながらプロジェクトチーム、ワーキンググループにおいて各ミーティングを進めているところです。ITスペシャリストとして、山本修平氏、石崎剛史氏、高橋智嗣氏、五十嵐理氏、アドバイザーとして笠原哲郎氏、池田純氏、上代晃久氏にご協力いただいております。

さいたま市GIGAスクール構想は以下のような組織で成り立っています。



各ワーキンググループでは、ITスペシャリストやアドバイザーの方々からアドバイスをいただきながら検討を進めております。

◆インフラ・セキュリティワーキング

タブレット端末やネットワークのセキュリティをどう保持していくのか、児童生徒、先生方が安全にそして使いやすいシステムはどうしていけばよいのかなどの検討

◆研修ワーキング

学校が「ICTを活用した教育」を推進するために、各校から3~5名程度、全市で500名程度のエバンジェリスト(各学校における推進の役割を担う教員)の育成を目指し、研修の内容等についての検討

◆コンテンツワーキング

スタディエッセンスのブラッシュアップや協働学習用ソフトの効果的な使い方、学習ログをどのように紐づけていくかなどの検討



「さいたま市GIGAスクール構想」Kickoffフォーラム開催について



このKickoffフォーラムを通して、市教委、学校の管理職をはじめとした学校職員が、さいたま市GIGAスクール構想についての趣旨や方向性等を共有するとともに、この機会に、まさに、「学びのパラダイムシフト」が起こっていくんだ、という思いを共有できたらと思っています。168名の校長先生方、そして約6,500名の学校職員が一丸となって1人1台端末を活かした授業に向けて準備を進めていきましょう。

このKickoffフォーラムでは、以下のような基調講演や特別講義を予定しております。

基調講演	経済産業省教育産業室長 浅野 大介 氏	演題 (仮) with コロナ after コロナの学びの改革について
特別講義	ITスペシャリスト (PM) 山本 修平 氏	講義題 (仮) ICTを活用した学校教育への期待
概要説明	インフラ・セキュリティ 石崎 剛史 氏	(仮) 端末整備の進捗状況とセキュリティ確保
	コンテンツ 高橋 智嗣 氏	(仮) 学校、家庭におけるICTの活用イメージ

経済産業省教育産業室長の浅野大介氏からは「GIGAスクール構想」の開始にあたり、将来を見据えた「未来の学び」など、広い視野から御講演いただきます。ITスペシャリストの山本修平氏にはさいたま市のICTを活用した教育の課題も踏まえ、御講義いただく予定です。その他にも、インフラ・セキュリティワーキングとコンテンツワーキングのITスペシャリストより、専門的な立場から概要説明や進捗状況等をお伝えする予定です。

「授業でICT活用」はじめての一步 ~「教師力」パワーアップ講座~



市教委では、来るべき1人1台端末時代に向けて、この『授業でICT活用』はじめての一步!』と題した「教師力」パワーアップ講座を企画しました。

この講座では、先生方に授業でのICT活用のイメージをってもらうことをねらいとしており、実際にタブレット端末を手に取り、操作してみることで、ICTを活用したこれからの授業へ向けた準備をしていきたいとお考えの先生方に参加していただきたいと思ひます。

さいたま市教育委員会
 「授業でICT活用」はじめての一步!
 「教師力」パワーアップ講座
 ◆講座のねらい
 実際にタブレット端末に触れて操作することで、授業でICT活用のイメージをもつことをねらいます。
 第1クール…「いつでも」「誰でも」「簡単に」できるICT活用
 第2クール…(仮) 協働学習用ソフトの活用について
 第3クール…(仮) ICTを活用した個別授業

教育長室の窓から

「さいたま市GIGAスクール構想」の本格実施が来春3月に近づいてまいりました。現在、高速大容量ネットワーク工事を順次進めており、端末も今後、徐々に学校に導入してまいります。1人1台の端末が配られると、このようなユースケースが考えられます。小学3年生のAさん、登校すると保管庫からフル充電された自分の端末を席に持ってきてログインし、計ってきた体温と体調を入力します。Aさんの担任のティーチャー機には全員分のデータが集まるとともに欠席の連絡も入ってきます。また、前日、算数の授業で二桁の割り算がよく分からなかったAさん。担任が子どもたちのスタディログをチェックしていたら、Aさんのつまずきが分かり、昨日の段階で先生は「二桁の割り算、少し難しかったかな?朝、この問題にチャレンジしてみよう」とメッセージを送りました。Aさんがログインすると昨日分からなかったところを補習するドリルが届いています。「先生、見てくれたんだ!」とAさんは朝自習の時間にチャレンジします。続いて1時間目、国語の授業。共通に使える教材、学年で使えるデジタルコンテンツがクラウドに入っているの、それらを使って授業が展開されます。子どもたちは、端末を文房具として使って授業に参加していきます。

これはほんの一例で、できることはまだまだたくさんあります。未来社会を支える子どもたちが笑顔で端末を学習等に活用できるように、引き続き、ITスペシャリストの方々から斬新なアドバイスやアイデアをいただきながら準備を進めてまいります。

編集後記

教育委員会だより第18号はいかがでしたでしょうか。今後も、定期的に各課所室から、教育委員会の今を伝える情報を発信してまいります。

【第18号編集担当】 管理部教育政策室 048-829-1626